

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会

令和元年度（平成31年4月1日から令和2年3月31日）

事業報告

1. はじめに

京都連盟では、昨年春から夏にかけて「ボーイスカウト活動充実のためのアンケート」を実施しました。これは小学生の保護者を対象にした学校外活動に関する意識調査で、府内9小学校の協力を得て一般保護者2,179名から回答をいただきました。

このなかで「自然体験活動」や「社会貢献活動」については、ほとんどの方（95%）が「子どもの仲間づくりや将来のためになる」と期待を寄せており、「そのような青少年団体の活動を近隣で見ることがあるか」には23%が「よく見かける」と答えています。この数字は決して少なくないのではないでしょうか？

世の中は依然「スカウト活動を支持している」と自信を失わず、しかし競合団体はどんどん成長していることに気が付かなければなりません。いまや学習塾で敏捷性を養う「しっぽ取り」ゲームをし、少年野球チームがユニフォームで地域の清掃行事に参加し、ワールドカップの競技場でサポーターがごみ拾いをしているのです。

このような団体とどのように融合して、さらにスカウトが際立てるかが、人々から篤志をいただくうえで肝心の要です。

京都にボーイスカウトが発足して105年。30年目で終戦、戦後43年でスカウト人口はピークを迎え、以後32年間減り続けてきました。

今年度は、加盟員数減少の対策として、新規の加盟員数を前年度比10%アップを目指した結果、前年度同数の193名を維持しました。さらに中途退団者を減らす方を充実させることが求められています。

また当該会計年度は、維持会費収入が2,420千円と前年度比-140千円となりました。

2. 事業報告の内容

(1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体として、京都連盟を助成対象とした。

(イ) 助成の趣旨・使途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、スカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ) 事業実績

- － 事業費として、総額 1,300 千円を支出した。
京都連盟の進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費、ボーイスカウト講習会及びウッドバッジ研修所運営費等に必要となる事業費の一部に対して助成した。
- － 第 24 回世界スカウトジャンボリーに、500 千円を支出した。
期 間：令和元年 7 月 21 日～8 月 5 日
会 場：アメリカ・ウエストバージニア州、サミットベクトル
参加者：京都連盟から指導者 6 名、スカウト 33 名を派遣。
日本から 1,207 名、全世界から 41,363 名が参加した。
- － 第 3 回ボーイスカウト京都連盟ガーナ派遣に、500 千円を支出した。
期 間：令和元年 9 月 10 日～18 日
派遣先：ガーナ共和国・首都アクラ近郊
参加者：指導者 2 名、スカウト 9 名

(参考) ボーイスカウト講習会の実施状況

名称	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
期日	6 月 16 日	10 月 27 日	11 月 17 日	3 月 1 日
会場	宇治市 中央公民館	舞鶴中 総合会館	洛西 新林会館	下鴨神社 公文所-
参加者	25 名	10 名	22 名	コロナ感染防止 のため中止

(参考) ウッドバッジ研修所等の実施状況

名称	WB 研修所スカウトコース 京都第 3 期	WB 研修所 課程別研修		
		BVS 課程京都第 2 回	VS 課程京都第 1 回	CS 課程京都第 3 回
期間	5 月 3 日-6 日	5 月 12 日	5 月 12 日	9 月 29 日
会場	広河原野営場	京都テルサ	京都テルサ	京都テルサ
参加者	23 名	11 名	11 名	19 名

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場：京都市左京区広河原尾花町 27 番地

(当法人所有：山林 22,559 平方メートル、原野 521 平方メートル)

(イ) 体験活動の運営主体

日本ボーイスカウト京都連盟

(ウ) 体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(エ) 体験活動に参加した対象者、使用月日、使用人数等

使用者	使用月日	使用人数	備考
1. 山開き	4月20日-21日	15人	イベント委員会
2. WB研スカウトコース開設	5月3日-6日	34人	イベント委員会、所員、トレーニングチーム
3. 歩こうキャンプ	6月1日-2日	7人	京都第37団
4. 野営場整備（草刈り）	7月20日-21日	10人	イベント委員会
5. 合同キャンプ	8月10日-14日	50人	京都第47・72・82団ボーイ隊
6. 冬ごもり整備	11月23日-24日	15人	イベント委員会
7. 隊集会	2月23日	7人	京都第38団ボーイ隊
合 計	18日	138人	

(オ) 事業実績

広河原野営場建物の減価償却費 80,730 円・固定資産税 4,300 円が主な費用実績である。

(カ) 広河原野営場近隣における舎営施設土地建物の取得又は賃借について

利用状況がはかばかしくなく、当面見合わせる。

(3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業：「連携」

(ア) 趣旨

ボーイスカウトの指導者が、テーマを設けて研修する催しに青少年の育成を指導する人としての素養を涵養するために、企業人、教育者等の有識者を講師に迎え、オープンに一般の参加者も迎え、セミナー等を実施するものである。

(イ) 事業実績

令和元年12月1日に「指導者全体研究集会」が京都テルサ大会議室で開催され、139名の参加があった。

- － 第3回ガーナ派遣報告
- － ローバースカウトの集い
- － 京都連盟指導者全体研究集会
 - ・ 部門別研修（ビーバー、カブ、ボーイ、ベンチャー、ローバー、団の6分科会）

- ・特別講演 「社会に求められる人材とは」
講師：水野正人氏（ボーイスカウト日本連盟理事・国際コミッショナー、ミズノ株式会社 会長）

(4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業：「イベント」

(ア) 国際交流・国際貢献活動支援

- － 第13回アジア・太平洋地域ローバームート派遣
令和元年12月8日～令和2年1月12日 オーストラリア スカウト1名
- － 韓国・京畿南部連盟派遣
令和2年1月3日～6日 スカウト7名、指導者4名

(イ) 社会に役立つ事業活動支援

一般青少年を対象にした事業は、スカウト仲間を増やすためにも、各地区・各団で工夫したプログラムが実施され、この一般向けの案内のためにホームページを活用した。

- － 全国防災キャラバン
10月20日 イオン福知山店 奉仕40名、来場126名
11月23日 ふれあい山科2019区民まつり 奉仕15名、来場267名
2月15日 イオンモール京都桂川 奉仕38名、来場300名
- － 全国都道府県対抗女子駅伝競走大会（1月12日）
走路沿道の自主整理員としてスカウトと指導者が奉仕した。
- － 全国車いす駅伝競走大会
例年3月に奉仕してきたが、令和2年は新型コロナウイルス感染防止のため開催中止となった。

(ウ) 環境まち美化活動支援

「みどりの募金」活動には、各団が春と秋に奉仕した。

また、京都市「まち美化運動」には、例年「世界の京都・まち美化市民総行動」（11月4日）にスカウトと指導者が参加した。

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業：「広報」

(ア) ホームページの充実により、組織内外のコミュニケーションを促進する。

- ① 一般の子どもや保護者が参加可能な団主催「スカウト体験と説明会」や地区主催「ビーバーランド」「カブラリー」等、スカウトの日（ゴミ拾い等の奉仕活動を実施する日）等について、ホームページにて告知し、地域の青少年の参加を促した。
- ② ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に

適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行った。

③ ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼した。

④ OBの復帰受け皿としての「サポーター制度」を確立し、ホームページを通じて公募した。

(イ) 事業費実績

主な事業費は、ホームページ運営改革費（392,400円）を支出した。

(6)財源の確保（維持(賛助)会費の入金状況）

維持(賛助)会費の入金内訳は以下の通りです。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
維持会費収入額	2,450 千円	2,492 千円	2,470 千円	2,560 千円	2,420 千円

当該会計年度は、維持(賛助)会費収入が 2,420 千円と前年度比－140 千円となりました。

引き続き、役員の方には、21世紀を担う青少年の健全な育成の場としてのボーイスカウト運動を、地域社会の方々の認識を高めるのにご尽力をいただき、広く財政的援助を頂戴していただけるように努力して頂き、維持会員数の拡大に一層のご協力をお願いする次第であります。

以上